人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた
震災資料室／発行
〒653 神戸市長田区北町3−4−3
電話（078）579−2311
発行人／寿 広文
編集人／福嶌・山西・武川

第48号

もくじ

①三ツ星本社防災訓練
②防災福祉コミュニティ
③震災資料室展を終えて
④訪ねてこられました他

帰ってきた三ツ星　本社で防災訓練

薄日の射す十一月五日の日曜日、長田区浜添通四丁目の三ツ星ベルト本社で「真野地区総合防災訓練」が実施された。

訓練は地震発生に伴い本社二階から出火して周辺地域への延焼拡大が想定されるとして行われ自衛消防隊、真野地区防災福祉コミュニティ（代表、岡　幸雄さん）そして長田消防署等二百十名が参加された。

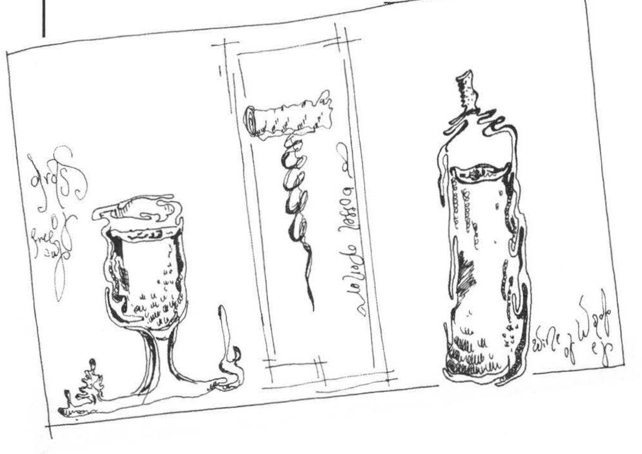
九時二十分きっかりにサイレンが鳴り発煙筒から煙が噴き出したのに続いて放水訓練や屋上からのレスキュー隊による救出訓練が敏速に実施された。

三ツ星ベルトの自衛消防隊について社内報「星座」は次のように記している。「阪神大震災の折り、当直だった保安長の池田哲男さんが携帯マイクで夜勤の六十数人に呼びかけ自衛消防隊を結成した。そして燃え広がる工場東側の街へ出動し防火ラインを設定し、中央工場の貯水槽（二百トン）と北側の消火栓（五十トン）そして工場内の井戸水からも取水し放水した。地域の皆さんもホースからの漏水をバケツに溜めてリレーをし、ようやく下火になりかけた昼過ぎに北消防署の消防車が到着したのだった」また同社の体育館も真野地区の被災者に開放され約四百人が避難生活をされた。

三ツ星ベルトは平成四年に本社事務所は中央区のハーバーランドセンタービルへ移転していたが、今回まちづくり推進会（代表、村瀬敏明さん）の要請を受けて創業の地へ帰って来た。

防災訓練の締めくくりは地元の長田中学校のブラスバンド部の十六名が宮崎駿のアニメシリーズを演奏し本社復帰を祝った。

寄贈していただきました。



先日、当区役所七階にて震災資料室展が行われました。その際、見学に来られた方から震災の資料として写真や小物などを寄贈していただきました。

その方は、名前も告げずに帰られたとのこと。おそらく長田区民の方だろうと思われます。資料室には書物関係の資料は様々な方のご協力のもと、ある程度の量が集められ保存されていますが、それ以外の資料はかなり少ない状況にあります。そこで、見学に来られた際に『あまりにも少ない。』と、一度帰宅されてから再度、来庁し、寄贈してくださいました。おそらく被災されたご自宅で集められたものだと思われます。そして写真のなかの風景から、この方のご自宅は御船通、大道通周辺ではないかと推測されます。

その寄贈物を紹介させていただきます。とっくり、ちょこ（四個）、陶器の置物（九個）、埴輪（二個）、キーホルダー（四個）、コンテクレヨン（三本）、溶けて原形をとどめていない鉛（四個）、焼け焦げた米（推測）、溶けたグラス、写真（十一枚）の計四〇点です。

これらのなかには、焼け焦げたり、破損の激しいものもありました。ご自身にとってこれらは大事なものだったことでしょう。これまで保存してきた資料と同様に大切に保存していこうと思っています。

生きんとあかん
著／日向 道子
けやき書房刊

光の子幼稚園・大震災からの歩み
学校法人光の子学園
「光の子幼稚園」船越諭さんより

在宅障害者安否確認
社会福祉法人
「えんぴつの家」松村敏明さんより
（「在宅障害者安否確認」資料につきましては、整理の上、順次公開しています。）

訪ねてこられました

田中充穂さん
阪南市人権啓発推進協議会

齊藤康さん

及川順一さん
藤沢市土木部道路管理課

河村融さん
藤沢市福祉健康部福祉推進課

鈴木誠一郎さんと生徒十名
埼玉県立松山高等学校

前田末廣さん
団地ジャーナル編集部

萩原正司さん
静岡新聞社

町本欣信さんはじめ二名
（財）阪神・淡路大震災記念協会

1・17神戸に灯りを　in　みくら

２００１年１月１７日（水）午後５時〜
御蔵小学校　体育館およびグランド

1．震災資料展
2．鎮魂の太鼓演奏
3．「1.17KOBEに灯りを」

（詳細は後日、神戸市広報紙に掲載予定）

～防災福祉コミュニティについて～

第一回　長田消防署　松田　雄治

―安全で安心して暮らせるまちづくり―

1　防災コミュニティとは

市民の皆さん、事業所の皆さん、行政とが協力して、安全（防災）で安心（福祉）して暮らせるまちづくりを目指して、福祉活動や防災活動に取り組むコミュニティ組織をいいます。

2　なぜ防災福祉コミュニティをつくるのか？

阪神淡路大震災では、日頃からのコミュニティ活動の活発なところは、地域の皆さんが協力して消火活動や救助活動にあたることができ、大きな力を発揮しました。

このことを教訓として、日頃からの福祉活動をとおして、『ふれあい』や『つながり』を深め、災害のときには、自分のまちは自分たちで守ることができるようなコミュニティ組織を作ろうとするものです。

まだ結成に至っていない地域のみなさんも、今後コミュニティづくりについて自治会等の集まりで話し合い、結成に向けての活動をされますことをお勧めします。

3　神戸市は支援します。

神戸市はいざというときの地域による活動がスムーズにできるよう、原則として小学校単位で防災福祉コミュニティづくりを推進しており、地域のイベント活動などを通じて次の4本の柱で支援します。

①地域防災活動の支援
・活動費の一部助成をします。
・訓練等の指導をします。

②市民防災リーダーの育成
・地域リーダーの育成をします。

③防災資器材の配備
・地域の所帯数を目安にして防災資器材の配備をします。

④地域福祉活動の支援
・地域福祉センターの整備をします。
・地域福祉活動への助成をします。

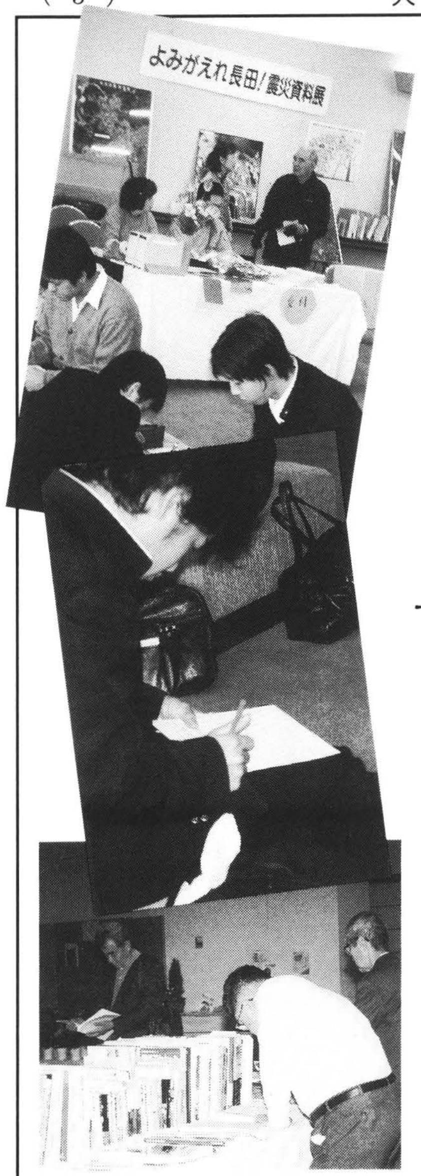
4　防災コミュニティの結成状況

平成7年度から現在までに長田区内では次の8地域で結成されています。

・平成7年度
真陽地区防災福祉コミュニティ
・平成8年度
丸山地区防災福祉コミュニティ
・平成9年度
長田小学校区、会陽地区防災福祉コミュニティ
・平成10年度
若松地区、真野地区防災福祉コミュニティ
・平成11年度
五位の池小学校区、重池地区防災福祉コミュニティ

※次回は防災福祉コミュニティの活動状況等について紹介します。

震災資料室展を終えて



11月14日から17日の間、長田区役所7階区民ギャラリーで職員の作品展と資料室展を行いました。その際、震災資料を見られた感想をたくさんいただきましたので、ここでその一部を紹介したいと思います。

・被災地に近いところで行っている資料室展ということで感慨深いものを感じた。今もこのあたりを歩くとあちこち空地のなって手付かずになっている場所のあることに心が痛む。（長田区　男性61才）

・過去は苦しい思い出ですが、月日と共に忘れるものです。（長田区　男性89才）

・長田区の状況を写真で見て迫りくる猛火は、本当に心を凍らせるものであったろうと思います。（西宮市　53才）

・日誌・作文等貴重な資料を見ることができ、良かったと思います。特に、子供達の作文については、考えさせられることが多くありました。（西宮市　女性45才）

・自分達の住んでいるところでは、大きい地震にあったことが無いので、実感がなかなかわかなくて、テレビなどを見ても『大変だなあ』などと思うくらいでした。でも実際に震災にあった街に来て話や写真を見ると実感がわいてきて、とてもいい経験ができたと思います。展示してある写真は、戦後の日本を思わせるくらいでした。（埼玉県　男性16才）

・自分達の住んでいる所に実際に地震が起きたらどう対応すれば良いのか改めて考えさせられた。（無記名）

・あの日あの時あの姿は、目に涙のみ。後世に語り継げ、展示続け（長田区　男性68才）

・生の資料を手に取って見ることができる機会は、今となっては無いことなので、震災を振り返る意味でもこういった展示会は、地域の中でも必要なものだと思いました。（西成区　女性31才）

・震災後1ヶ月後位に実際に目前に街を見た時のショックは忘れていませんが、このような写真を見ると鮮明に思い出されます。（無記名）

・この頃は震災の事は思い出す事があまりないですが、この展示を見て…あの頃の事が思い出されて少し悲しい気持ちになりました。いろいろな事がありすぎたんでしょうね。（無記名）

・パネルを見てあの時の事が思い出されました。現在の長田の町を見る時今日の日が来るとは考えられなかった。（無記名）